

得る事過分なり、又右二尺五寸繩の藺にて、四はへの面を四枚うち立る事なり、備後の藺田の土は少ねばかりありて小石少々交り、性のつよき地なり、藺は地の甚深きをよしとせず、底の堅くして中分の土地、早稻を作る地を糞にあかせ、十分に作れば、上藺出来るなり、深田の肥たるにながくふとく出來たるは寢席にうつなり、上面をうち出す所は、三名みなし、わらや、草深などいふ里なり、他村の女は及ぶ事なしとなり、藺の畠をよく事刈取て、二番そだてを生立置て用ゆるなり、又は一番をからずして、其まゝ置て苗とするもよし、別に糞し手入にも及ばず、若草あらばぬき去べし、備後は肥良の地多き國にて、南方を受るゆへ、土產色々おほき中に、藺田の利勝れて多し、六月刈取、藺のかぶをぬき去跡を其まゝ耕して、かねて晚稻の苗を仕立をき、早速うへて、手入だん／＼常のごとくすれば、大かた時分にうへたる稻にさのみはをとらず、霜ふりて刈取と云なり、何國にも必田地肥過て、其實りよからぬ所ある物なり、左様の地に、此法を用ひて藺を作るべし、疊にうつ事ならざるものなは藺にて賣たるも利ある物なり、殊に跡にも又稻の出來る地ならば、誠に過分の利なり、所によりて考へ、或へなをも習を得て、心を用ひ其利を求むべし。

〔草木育種下 服器に用ゐる物〕燈心草 池澤の邊に植、或水田に植るなり、此草の瓢を取て燈に入蠟燭の心に入、又藥に用、此草にて席を織たるを近江席おおのじと云、此類に細して短ものをこひげと云、是にて織たる席を備後席といふ、短ゆへ中にて繼なり、皆肥は雞屎を第一とす、又塵ほこり干鰐等を用てよし、

〔廣益國産考三〕藺田耕しやう

凡稻を作る田を耕すに異る事なし、若至極の深田にて、人の臍より上にもふみ込程ならば、凡二月の末つかたに至りて、周り壹尺壹貳寸もある大竹を、貳本ならべて是をふまへ、鍬にて前へ前へとかえし耕すべし、又ふまへたる竹を、向ふへやりては耕しきして行べし、其後三月の始つ